

応募を面接につなげるために 求職者への対応はスピードが命

企業が成長するうえで、優秀な『人財』の確保は不可欠です。売り手市場の今、求職者は複数応募し、その後の事業者の対応次第で面接を受ける企業を決めるケースが出ています。人材確保には求職者の応募を面接までつなげることが重要であり、そのために求められているのが、事業者の“求職者ファースト”を念頭に置いた迅速なレスポンス(反応)です。

今回は、求職者を逃さないスピード感ある対応のポイントについて、船井総研ロジ株式会社の河内谷庸高氏に解説してもらいます。



求職者の約半数が応募後に面接に行かない!?

オウンドメディア・リクルーティング※や会社説明会で求職者からの応募を増やした次は、実際に来社してもらわなければなりません。ネットを通じて気軽に応募できるようになった反面、面接のキャンセル数も以前より増加しています。実際に事業者からも「せっかく応募があったのに、連絡がつかない」、「ドタキャンが多く、面接までつながらない」、「当日連絡もなしに、面接に来なかった」という声をよく聞きます。

一般的に今の時代、売り手市場で求人案件が数多くあるため、求職者は興味を持った会社に複数応募しています。そして

連絡が早い企業から面接に進み、魅力的な会社があれば入社を決めるため、その他の会社は候補から消えます。つまり求職者への対応スピードが、面接来社率を左右する大きな要因になっているのです。それを裏付けるように、面接に行かなかった理由として「すでに他の仕事が決まったため」や「会社からの連絡が遅かったため」といったことが上位を占めており、企業側の対応スピードが影響を与えていることが分かります。

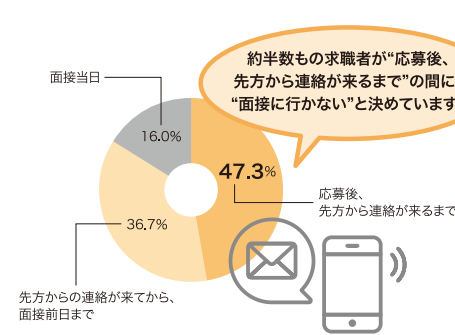
※ホームページや広報誌など、自社の運営するメディアを利用する採用活動のこと

河内谷庸高 (かわちや のぶたか)

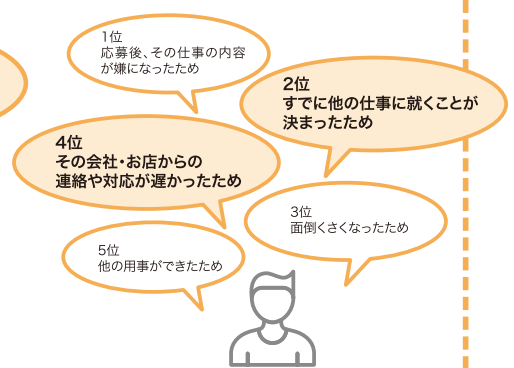
船井総研ロジ株式会社 物流ビジネスコンサルティング部所属、部長、エグゼクティブ経営コンサルタント。
運送会社・物流会社向けにマーケティング戦略の立案から販促・営業企画、新規事業参入等、業績アップコンサルティングに従事。近年はドライバー採用・定着・育成をメインテーマに活動。ホームページを核とした求人方法で、エリアや企業規模に関わらず、今の時代でもドライバー採用に困っていない運送会社を各地で輩出している。物流企業経営研究会「ロジスティクスビジネス経営研究会」を主宰。

いまどきの求職者が面接をキャンセルするタイミングとその理由とは

■いつ“面接に行かないこと”を決めましたか？



■面接に行かない“理由”は？(上位5位)



調査対象：3年以内にアルバイトに応募したことがある学生・フリーター・主婦のうち、「応募したが、面接に行かなかった」、または「採用を通知されたが、採用を辞退した」経験がある16~59歳までの男女

出典：パーソルキャリア株式会社「an report 面接キャンセル・採用辞退を防ぐ3つのポイント」より船井総研ロジ株式会社作成

折り返しの連絡と面接は早ければ早いほど効果的

求職者の面接来社率を上げるためのポイントは「応募を受けてからの連絡」と「面接日程の設定」を、スピード感を持って実施することです。

まず、求職者からの「応募を受けてからの連絡」について、皆さんの会社では平均どのくらいのスピードで折り返し連絡をしているのでしょうか？理想は“5分以内”といわれています。最近ではスマートフォンから応募してくることが多いため、まだ手元にスマートフォンを持っている状態の時に連絡すればつながりやすいです。「当日のうちに連絡をしている」でもスピード感がありません。遅くとも1時間以内を目標にしてください。上の図の通り、応募から連絡がくるまでの間に約半数の人が心変わりをしています。求職者は応募した瞬間が最もその会社に対して就業意欲が高まっているため、即電話をすれば連絡がつきやすく、加えて面接来社率も高まるのです。

応募者への連絡方法ですが、メールで応募があった場合もまずは電話で連絡することが望ましいでしょう。メールだとレスポンスが遅かったり、複数回のやり取りが必要になったりと、

面接日時を確定させるまでに数日経過してしまう恐れがあります。もし電話がつかない場合は、SMS(Short Message Service)を使用しましょう。SMSは、携帯電話の番号を宛先にしてメッセージをやり取りできるサービスです。送れる文字数に制限はありますが、携帯番号さえ分かればやり取り可能で、Eメールよりも返信率が高まります。

もうひとつの「面接日程の設定」ですが、こちらも応募を受けてから早ければ早いほど、面接来社率が高まり入社につながります。ある運送会社で統計をとったところ、応募が発生してから5日以内の日で面接をした人たちの入社率は38%でした。6日目以降で面接を実施した人たちは、入社率が8.3%と大きく異なる結果になりました。



折り返しの連絡や面接日程の設定をスピーディーに!
“求職者ファースト”を念頭にした採用体制を